

令和4年度第1回総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和4年4月21日(木) 13:00～14:23
2. 開催場所 岸和田市役所新館4階 第2委員会室
3. 公開・非公開 公開
4. 出席者 構成員 市長／永野 耕平 教育長／大下 達哉 教育長職務代理者／植原 和彦
委員／野口 和江 委員／谷口 馨 委員／和田 郁美
事務局 総合政策部長／西川 正宏 企画課長／貝口 みね子
企画課担当長／中井 学 主任／羽室 貴之 担当員／内海 可那子
教育委員会事務局
教育総務部長／藤浪 秀樹 総務課長／井上 慎二
学校教育部長／片山 繁一 学校教育課長／松本 秀規
生涯学習部長／牟田 親也 生涯学習課長／井出 英明
5. 会議資料 ・ 次第
・ 資料1 令和4年度岸和田市教育重点施策
・ 資料2 令和3年度全国学力・学習状況調査 児童生徒アンケート各項目と平均正答率のクロス調査(岸和田市)

6. 内 容

〈永野市長〉

皆さま、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから令和4年度第1回岸和田市総合教育会議を開会いたします。

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

大下教育長におかれましては、オンラインでのご出席よろしくお願いたします。

大下教育長をはじめ、教育委員会の各委員の皆さま方におかれましては、平素から岸和田市の教育行政の充実及び発展のために大変なご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

本総合教育会議は、市長と教育委員会との協議・調整の場でございます。法の趣旨を踏まえ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保し、教育委員会との連携の強化を図りながら、進めてまいりますので、よろしくお願いたします。

それでは、本日は今年度第1回目の会議ということですので、自己紹介をお願いしたいと

思います。

教育委員の皆さまは昨年度と変更はございませんので、事務局及び関係者において異動があった職員について、簡単な自己紹介をお願いします。

(事務局：自己紹介)

〈永野市長〉

それでは、次に会議録の署名について、事務局から説明をお願いします。

〈事務局 企画課長〉

会議録の署名についてご説明いたします。

本日の会議の会議録に署名をいただく委員の方の選任を行います。岸和田市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定から、市長と、市長が指名した出席者1名の方に会議録をご確認の上、ご署名いただきます。次第の裏面にございます、委員名簿に沿いまして順番にお願いをしております。本日の会議録の署名者は、和田委員にお願いいたします。和田委員、よろしく願いいたします。

会議録につきましては、委員の皆さまにご送付させていただき、訂正等があれば事務局へご連絡いただき、会議録の修正等をさせていただきますので、皆さまよろしく願いいたします。

また、本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定に基づき、公開となります。本日の傍聴人は0名でございます。

以上でございます。

〈永野市長〉

それでは、会議事項に入ります。事務局から本日用いる資料の確認をお願いします。

〈事務局 企画課長〉

まず、次第が、A4サイズで両面1枚でございます。また、お持ちいただくことになっておりました「令和4年度岸和田市教育重点施策」、最後に「令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒アンケート各項目と平均正答率のクロス調査（岸和田市）」でございます。

配付資料は以上でございます。

〈永野市長〉

では、次第に沿いまして、会議事項の「2. 第2期岸和田市教育大綱実現に向けた主な取組について」に移ります。令和4年度の教育重点施策の最重点施策について、ご説明いただきたいと思っております。

大下教育長、よろしく申し上げます。

〈大下教育長〉

まず、新型コロナウイルス感染症の関係で、市長のお許しを得て、オンライン出席となりました。皆さまには大変ご迷惑をかけておりますことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

私からは、令和4年度の岸和田市教育重点施策の最重点施策についてご説明したいと思っております。

お手元にごございます冊子、教育重点施策の4ページをご参照ください。

最重点施策については、昨年度から取りまとめをさせていただいております。昨年度は4本の柱でございましたが、今年度は項目を整理しまして、3本の柱で位置づけております。また、生涯学習部の事業を今回新たに付け加えております。

この2点が主な変更点でございます。

まず、1本目の柱である、「学力向上と児童生徒の成長を促す指導を充実させます」でございます。

ご案内のとおり、岸和田市の子どもたちの学力テストの結果については、大変厳しい状況でございます。全国学力・学習状況調査においては、大阪府の平均を10ポイント以上も下回っている状況でございます。さらには、正答率が4割に満たない子どもの数は約2倍になるという大変厳しい状況でございます。

その中で、岸和田市教育委員会では、まず授業の送り手側である教員の授業改善の取組を進めておりました。子どもたちがしっかりとその単元・時限の目標の認識をして、主体的に対話的に学ぶことができるような授業を進めてまいりました。

基本的に学力というのは、「読み書きそろばん」と言われますが、やはり言語能力をはじめとした学びの土台ということが非常に重要であるという認識から、昨年度から認知機能の向上を図る「コグニティブトレーニング」のモデル実施を行いまして、一年が経過しました。最終の取りまとめはまだできておりませんが、この間、子どもたちの集中力が高まった、あ

るいは、書き留める力が向上したなどの一定の成果が得られております。

また、子どもたちが、家庭において学習の機会を持つことができないということに対応するため、放課後学習支援事業（まなびサポート）の拡大実施をさせていただいておりまして、こちらもさらに充実させたいと思っております。

一方で、学校現場の指導の状況を見ますと、他府県や他自治体に比べて、テストに臨む準備が十分に実施されていないのではないかという風な思いを持ちました。そこで、子どもたちが他自治体の子どもたちと同じスタートラインに立てるように、テストに臨む心構えやわかりやすい問題から解いていくというような、テストに臨むノウハウを子どもたちにしっかり伝えてテストに臨ませようということを、先日行われた校長会、校園長会において、意思統一させていただきました。

今後、学力の向上に努めていきたいということですが、特に ICT に関しては、今年度新たに ICT 教育支援の担当参事を教育センターに配置させていただいて、GIGA スクール構想に基づくオンライン授業、学校の授業での端末の活用について、さらに研究を深め実践するとともに、教員の働き方改革にも繋げていきたいと考えております。

同じく、1本目の柱のうち、人権教育、生徒指導、いじめの問題についてですが、残念ながらウクライナでロシアの侵攻という本当に考えもつかないような事態が発生してしまいました。昔、平和についての仕事をしたときに、「平和」というのは単に戦争状態でないことをさすのではなく、一人ひとりの命や人権が大切にされている状況が平和であるということを教えられた記憶がございます。

学校でも、やはり子どもたちや働く教員たちの平和の確保ということが重要でして、学校での問題行動、あるいは、いじめということも平和を脅かす大きな要因の一つであろうと思っております。そういった意味でも、生徒指導の充実や人権教育の推進ということがこれから重要性を増していくと考えております。

先日、岸和田市教育委員会では、貧困問題や飢餓問題、さらには SDGs という新しい平和を脅かすような問題についても言及した、「岸和田市平和教育基本方針」を策定させていただきました。今後、この方針に基づいて、子どもたちそれぞれの発達段階に応じた平和教育や平和学習、さらには人権教育の推進に努めていく所存でございます。

1本目の柱の3点目は、「読書に親しむ環境づくり、郷土愛の育成」でございます。

昔から、「読み書きそろばん」と言われますように、やはり言語能力が学習の基本となっております。幸い、私どもには、書物を読み取る力というものが非常に重要でございます。幸い、私どもには、図書館の司書という専門職がおりまして、その専門職も積極的に学校教育に協力していこうという方針を持ってくれています。したがって、専門職の力も借りながら学校でも読書活動をさらに推進していこうと考えております。

また、岸和田市には、仁徳天皇陵や百舌鳥・古市古墳群よりも古い前方後円墳である摩湯山古墳や、日本で一番南に位置し、国の天然記念物にも指定されているブナ林の群生がある

ということで、海から山まで魅力に溢れた地域でございます。このような点においても、郷土文化課や自然資料館にも専門職の学芸員がおりますので、学芸員と学校現場が連携をとって、郷土愛の育成に努めていきたいと思っております。

以上が1本目の柱でございます。

2本目の柱は、「学びに向かう環境整備に取り組みます」でございます。

先の市議会で、東光幼稚園の閉園を含んだ「岸和田市立幼稚園及び保育所再編個別計画【前期計画】」が承認されました。いよいよ、幼保の再編がスタートしていくわけですが、今後、新たにできる認定こども園、さらには民間の保育園等にも岸和田の伝統でございます、幼小連携の取組を最重点に位置付け、広げていきたいと思っております。

小中の連携については、ご案内のとおり、今年度は、小学校で教科担任制が導入されることとなりました。小学校、中学校の9年間の義務教育を見通した子どもたちの成長や学びを、学校で共有し、育てていくことが必要であるという認識から、基本方針に基づいて小中一貫教育のさらなる推進に努めてまいります。

学校の適正規模・適正配置の問題については、昨年11月中旬から12月中旬にかけて「岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画（第1期）（案）」の地域説明会を実施させていただきました。今後は、各校区でさらに議論を進めていくという観点から、校区懇談会を設け、共通理解の構築に努めてまいりたいと思います。

3本目の柱は、「子どもたちの安心・安全を守る環境づくりに取り組みます」でございます。

昨年、千葉県八街市で悲惨な交通事故が起きました。また、全国では、昨日、一昨日も交通事故でお子さんが亡くなるといったニュースもございまして、やはり、学校においても、そして、地域においても第一に考えるべきは子どもたちの安心・安全の確保でございます。

新年度を迎えるにあたって、校内外の安全を脅かす危険性がないかについて再点検を行っていただきたいということと、交通事故だけでなく、校内での危険、例えば、給食におけるアレルギー事故などを含めた危険因子の把握などに努めてほしいということ、この2点について先日の校長会、校園長会において、再度周知徹底をさせていただいたところでございます。

また、新型コロナウイルス感染症においても、まだまだ緊張を緩めてはなりませんので、校園で感染防止の徹底の依頼をさせていただいたところでございます。

以上が、令和4年度の主な本市教育に係る最重点施策についてのご説明でございます。

ここで私から1点、総合教育会議の場で皆さまにぜひ意見交換していただきたい項目をお伝えしたいと思います。

お手元に3枚のグラフや表がついた「令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒アンケート各項目と平均正答率のクロス調査（岸和田市）」という資料があるかと思います。

1枚目は生活習慣に関して、朝食の喫食状況や毎日の起床・就寝の時間と各学力テストの成績との関係性について触れております。2枚目は、家庭学習の状況とテストの成績の状況について。さらには、読書習慣等と成績の関係性についてです。3枚目は、テレビゲーム等と成績の関係性についてです。

一番好ましいと思われる選択を選んだ場合、正答率も高く、好ましくないと思われる選択を選んだ場合は、正答率が低くなっています。

特に、3枚目のテレビゲーム等の項目をご覧ください。1日にテレビゲーム等をする時間が1時間より少ないと回答した児童・生徒の割合は、全国の場合で16.5%、岸和田の場合で12.9%でした。逆に、1日4時間以上テレビゲーム等をする回答した児童・生徒の割合が全国は15.5%に対して、岸和田市の場合には29.8%ということでした。1日4時間以上テレビゲーム等をしている子どもの割合は全国の割合の2倍近くいるという状況でございまして、右側の棒グラフも見ていただくと差は歴然しておりますが、テレビゲーム等の時間と成績が反比例しているという関係にあるということです。この辺りも大変大きな課題であると思っております。

もちろん、このような生活習慣や家庭での状況、さらにはテレビゲーム等をするかしないかという問題は、単に家庭だけの事情ではなく、都市化の進展状況や家族構成などさまざまな要因が複雑に絡んでこのような状況を生み出していると理解しておりますが、やはり、家庭や地域においても子どもたちの学力を高めていくために取り組んでいただけたところ、協力していただけたところがあるのではないかとこのデータを見て強く感じました。

この問題については、大阪府教育庁において、平成20年に家庭・地域に呼びかける冊子を作成し、配布されました。内容としましては、学力向上のために育みたい力として、学校ではしっかりと基礎基本と応用力、自ら学ぶ力を身につけさせるため、家庭においてはぜひ規則正しく生活する力、あるいは、自らを律する力を身につけていただきたいということを家庭に呼びかけた例があります。

本市の教育委員会でもかねてから家庭向けにリーフレットを作成・配布をさせていただいております。学力向上のために家庭でしていただける取組、さらには最近では市の教育委員会として学力向上に重点を挙げて取り組んでいく、そのような内容のリーフレットも作成・配布をさせていただいているところでございます。

さらには、生涯学習部で所管をしておりますが、家庭に関わる課題について、保護者がともに学ぶことができる家庭教育学級の開催や講師を派遣し実施する参加型の講座の開催なども行っております。また、育児に関する情報交換、あるいは、助言の場としてキッズルームの開設などを実施してきたところでございます。

第一義的には、岸和田市の子どもたちの学力向上は学校教育に左右される部分が多いと考えますが、家庭や地域においても、より幅広く主体的に関わっていくことが重要ではないかと考えてございまして、岸和田市、あるいは、岸和田市教育委員会としてこの問題についてどう家庭や地域と関わり、教育していくことが可能なのか、その辺りについて市長や教育委員

の皆さまのご意見をぜひこの機会に伺うことができたらと思っております。

以上でございます。

〈永野市長〉

大下教育長ありがとうございました。大下教育長から最重点施策のうち学力向上について、特に家庭や地域との関わりについて意見交換をしたいとのご提案がございました。

この件について、委員の皆さまからもご意見をお伺いしたいと思います。挙手の上、発言をお願いします。

〈谷口委員〉

市長との総合教育会議も回を重ね、その都度私も意見を述べさせているわけですが、なかなか結果が出ず、改善の方向がなかなか見ることができないところに、自分自身でもじくじたる思いがありまして、どのようにしたら良いのだろうと考えております。

その間、総合教育会議の基になる教育大綱をさらに絞って重点施策、さらに絞って最重点施策という風に、手のつけることができるところから一つ一つクリアしていくという姿勢があります。まだ結果ははっきりしませんが、間違った方向ではないと信じております。

今回、教育長から、「家庭」という部分を一度考えてほしいという話でした。

家庭というものはなかなか難しいところがあると思います。約8年前に、その当時の教育委員で、学力の上位校である福井県の小学校を視察したことがありました。そのときに感じたことは、学校の授業風景は教師が一生懸命話をしており、まるで乾いた砂に教師が水を撒き、水が浸み込んでいっているような雰囲気、静かな教室に子どもたちが集中して話を聞いていました。教師や子どもたちのレベルは、本市となんら変わらないと感じました。今年の教育フォーラムの様子がテレビ岸和田で放映されていましたが、見ていただいてわかるとおり、なんら遜色はないと思っております。もちろん、岸和田市の子どもたちの能力が福井県の子どもたちよりも劣っているというわけでもありません。視察の際に、福井県の校長や教頭と話をしましたが、帰宅後は必ず予習・復習するという風土があるということを知り、そこに本市との違いを感じました。そのことが当たり前の状態になっているので、子どもたちが継続して実行した結果、全国上位の成績を修めることができているということでした。

確かに家庭と学校教育は両輪と言われますが、風土や文化、伝統が違うのではないかと考えました。

家庭学習となると、宿題と自主学習というこの2つが代表的なものであると思います。宿題はある程度学校から課され、特に低学年の場合は、ほとんどの児童が宿題を提出しますが、提出しない児童もいるので、提出できる範囲での宿題の量となると、非常に少ない量の宿題

を課す学校もあるように聞いています。いずれにしても宿題は学校が絡んでいます。

もう一つの自主学習は、子どもが主体的に勉強するということはなかなか難しいので、キーポイントになるのは保護者ということになります。ただ、先ほども述べたように、保護者教育と言ってもどこまで迫ることができるのかというところが非常に困難であるだろうと思っています。兄弟がいる方が良い方向に行くこともあるだろうし、逆にマイナスに働く場合もあると思います。

学校における学習と家庭における学習の違いは、教師というペースメーカーがいることが学校であり、子どもたちはペースメーカーに合わせて勉強を行うことができます。しかし、家庭における学習では自己マネジメント能力が必要で、子どもに任せていてはなかなか進まないことになります。したがって、家庭学習と言うものの教師がお膳立てしていかないといけないと思います。

家庭の教育力というものは、自ら進んでやる、自己責任をもってやるという自覚を親に持ってもらうといけないと思います。親への働きかけがあるかどうかということになると思いますが、わかっているができないということが人間なのです。

人を動かす行動変容の4要素というのがあります。1つ目は情報提供、2つ目は背中をそっと押すこと、3つ目は褒美と罰、4つ目は強制、この4つがあると言われておりますが、例えば、褒美と罰においては、褒美がなければやめてしまったり、罰を与えることによって精神的な歪を生んでしまったりする可能性もあります。強制ももちろん同じことです。

ここで、背中をそっと押すという、サポートするということが家庭における役割なのだろうと思います。そこで、教育委員会だけではなく、全市的に担当部署においてそれぞれサポートすることが重要なのだと思います。ヤングケアラーや貧困の問題などもありますが、「貧すれば鈍する」や「衣食足りて礼節を知る」ということわざもあるように、貧困によって教育機会が損なわれたり、妨害されたりするということはあってはならないと思います。

親が毎日宿題のことについて子どもに言い続けることによって、子どものやる気を削ぐようなことは言うてはならないと思います。逆に、子どものモチベーションを上げることを言うことも難しいと思っています。

私は「ウサギとカメ」の童話が大好きです。足の速いウサギと足の遅いカメが競走をし、最終的にはカメが勝利するという話ですが、問題はなぜウサギが負けたのかというところです。その理由は、ウサギの行動には全く目もくれず、カメは自分のゴールだけを見ていたからです。カメは目的に向かって一生懸命歩き続けたことが勝利に繋がったのではないかという解説を見たことがありました。

この話から、周りの人を気にすることなく、なりたい自分に向かって進んでいくということを子どもたちや保護者に伝えていくことが大切なのではないかと思いました。例えば、隣の子は90点とったけれども自分は80点だった。今までは50点しかとることができなかったのに今回は80点だったが、周りは90点であれば損した気分になります。他者と比較をす

るという点では保護者は子どもたちに強いているのではないかと思います。

教育長がおっしゃられた、令和3年度の全国学力・学習状況調査の3ページ目のテレビゲーム等の欄について私も思ったことがあります。それは、全くテレビゲーム等をしていない子どもよりも1時間よりも少ない時間で遊んでいる子どものほうが良い成績を修めているということです。したがって、全くテレビゲーム等をしないよりも少し遊ぶことによって、ゲームに対して楽しいという感情が沸き、次も遊びたいという気持ちになりますが、自分を律する力をもって1時間以内で終わっていると考えます。4時間以上遊んでいる子どもは、楽しいという感情が勝ってしまい、自分が疲れるまで遊んでしまうように思います。

どの科目も1時間よりも少ない時間で遊んでいる子どものほうが良い成績を修めていると考えると、自分を律する力を身につけさせることを、全市的に保護者にアピールし、情報伝達に努めることが、回り道のようなのですが、根本的な解決に繋がるのではないかと思います。

具体的な提案ができるわけでもなく、口だけになってしまい申し訳ないのですが、家庭教育に関する私の意見でございます。

以上でございます。

〈永野市長〉

ありがとうございます。他にご意見のある方はおられますか。

〈野口委員〉

新学期が始まって、約2週間が経過しました。子どもたちのマスク姿が当たり前となり、マスクが鼻からずれている子を見ると、注意してしまう毎日です。

初めて登園する3歳児の親子連れを朝よく見かけるのですが、3歳児は顔の3分の2から4分の3がマスクで隠れており、違う場所で見かけたとしてもわからないだろうと毎朝感じております。

先日、テレビ岸和田で放映されていた教育フォーラムを拝見しました。園児や小学生、中学生の姿は家庭や地域、学校などのそれぞれの人々のあたたかい、力強い支えによって日々成長していくものであると確信しました。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する前の状況に戻すのではなく、今ある様々な条件の中で子どもたちにとって最大限取り組めることを迷わず子どもたちとともに進めていくことが大切であると思います。

本日の主要な議題であります、学力向上についての意見を少し申し上げます。

全国学力・学習状況調査の結果については、昨年10月の総合教育会議でも意見交換・検討

してまいりました。

市長からも、誰かを悪者にしたり、責任転嫁したりすることではなく、皆で課題を解決に向けて前進していこうというお話をいただきました。

学力テストの結果を、岸和田の学校教育が劣っているということや、家庭教育に問題があると短絡的に結びつくことでは決してないと思います。これだけは私たちは確信をもって押さえておかなければならないことであると思います。

学校現場も地域も家庭も、子どもたちが生き生きと学び、できたりわかったりする喜びを味わって育ててほしいと心から願っております。そのために、さらにどのように努力していくかを具体的に考えることが喫緊の課題なのだと思います。

本年度の教育重点施策では、昨年公表された全国学力・学習状況調査や大阪府の調査、岸和田市独自の調査結果などを踏まえて、学力向上の取組を中心に最重点施策が策定されました。

学校現場に対しては、学びの土台作りとともに、子どもたちの目が輝くような学びの体験を与えることができるように授業の工夫をしていただきたいと思います。

学校での学びは個々の家庭で取り組む一人学習ではなく、仲間とともに取り組む学習ですので、同年齢の仲間と未知の課題をと共に解決していく中で、仲間との繋がりを持つ喜びを味わうことができる学びを考えていただきたいと思います。友達と一緒にやり遂げたという満足こそが、年齢相応の社会性の育みにつながり、それが本市の学力向上リーフレットにもあります、自尊感情や自己有用感に繋がっていくのではないかと思います。

そこで、ぜひ活用していただきたいのが、全国学力・学習状況調査の過去問題です。今年度の問題も新聞紙上で既に掲載されております。この全国学力・学習状況調査の問題を一人で取り組むよりも、各学校でグループを組み、みんなで話し合い答えを導き、結果に結びつけるという繰り返しをすることにより、子どもたちは解決する喜びを感じると思いますし、全国学力・学習状況調査のような問題にきつと慣れていくことができると思います。そのような取組をぜひ学校でやっていただきたいと思いますと感じました。

次に、家庭での学びについて私の思いを述べたいと思います。

学校教育に携わる者として、岸和田市の学力調査の結果を全国や大阪府の結果と比較し、何が課題かを捉えて取り組んでいくのは当然のことだと思います。しかし、各家庭では点数にこだわることや、他の子どもとの比較に一喜一憂することは絶対にしないでいただきたい。なぜならば、家庭学習は孤独な学びですので、何かを自分のものにしようという熱意が絶対に必要であるからです。思春期前であれば、周囲の強制で自分の思いとはかけ離れた学習に一定取り組ませることもできますが、自分への確信がないまま取り組んだ学習は、何かに躓いたときに、最悪の場合、深い劣等感を生み出してしまいます。自己への信頼を持ってないまま思春期や成人へと進んでしまうのは、人生の歩みの上で大きな危険をはらんでしまうのではないのでしょうか。

家庭で子どもが宿題に取り組む姿勢を見せたときは、それができるようになったことを家庭ではともに喜んでいただきたい。一文字でも新しい漢字の読み書きができようになったときは、ともに喜んでいただきたい。テレビやゲームに誘惑されたときでも、自らピリオドを打った瞬間があれば、それをともに喜んでいただきたい。

宿題が辛いとき、眠いとき、わからないとき、できないときがきつと出てくると思います。自分の意志で取り組むことをやめた、そのことを家庭では自覚させ、次に繋げることができるよう背中をそっと押してあげてほしいのです。そうするためには、今この瞬間の「できない」に囚われるのではなく、子どもの長い成長の道のりの先を見据えた親としての子どもへの信頼がきつと必要であると思います。しかし、私も親ですのでわかりますが、そうありたいと願う反面、個々の家庭が孤立しては保護者も不安に押しつぶされそうになります。だからこそ、学校や地域との繋がりが重要であると思います。

学校は、子どもが熱意を持って取り組める適切な宿題を課すことに努めていただかなければなりません。その宿題を、次は、学校での仲間との学びに結び付けることを学校は普段から意識しなければならないと思います。

さらに、ほとんどの保護者は日々お仕事をされています。今の日本の労働環境から見ると、家庭で子どもの学びとしっかりとじっくりと向き合うためには、様々な課題があるのが現状です。だからこそ、個々の家庭は孤立しがちになってしまうのだと思います。そのことは、もちろん社会全体で変えていかなければならない部分ですが、今この岸和田市でできることは、地域の取組で家庭を支えることではないかと思います。例えば、学校協議会の中で、地域に依頼をする具体的な取組について、もっと踏み込んで話し合いができればと思います。

このような現状ですから、岸和田市や教育委員会としても、子どもたちの今の実態や課題を乗り越えていく展望を示し、市民の皆さんに知らせ、ご理解いただくことが必要なのではないかと思います。

私もあまり具体的なことを申し上げることができませんけれども、市や教育委員会、そして、地域や学校、みんなで子どもたちを支えていけるようになればと思います。

以上でございます。

〈永野市長〉

ありがとうございました。他にご意見ある方いらっしゃいますか。

〈和田委員〉

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、戦争という衝撃的なニュースと映像が入り、子どもたちにこれ以上のストレスをかけないでほしいという思いと、現地の人々の気持ちを

考えると心が痛む日々です。

今回の学力向上のお話、家庭という言葉に親の立場としては耳が痛いですが、岸和田の子どもたちのために真剣に考えていかなければなりません。

教育長のお話にも出てきた、テレビゲームの話ですが、勉強は言わなければませんが、ゲームや Youtube は禁止しても見てしまうので、子どもたちを夢中にさせるものだと感じます。

ゲーム機器の所持率も高く、制限も各家庭によって様々です。制限が厳しすぎるとその反動で固執してしまったり、制限が緩いとゲームに依存状態であったり、共働きで制限が難しい場合もあり、適切な制限時間の約束で持たせてもなかなか止めずに親子で対立するということも多々あり、私を含め周りの保護者も頭を抱えている現状です。その中の保護者の一人が「ゲームを持っても持たなくてもストレスの元となるので、ゲームという存在をこの世から消去したい」と言っており、とても共感しました。

しかし、ゲームや携帯電話を家庭に取り入れた以上は付き合い方を教えることも親の責任であると思います。子どもと意見が対立する場合は、子どもの言い分をしっかりと聞くことから始め、お互いが納得できた上でのルールを作ることができると、信頼関係も深まり、親の声も届きやすいのではと思います。

また、学校で集中して授業を聞くためには、家庭で生活を整えて学校に送り出すことが第一であり、ありきたりですが早寝早起きと朝ごはんを食べることができているか。朝、気持ち良く学校に送り出せているかどうか。さらに、家で家族と心満たされる触れ合いができているかどうか。それには時間的にも精神的にも親の余裕が必要ですので、そこをどのようにして作り出していくかが課題であると思います。

数年前のことですが、学校から配布される保健だよりの裏面に、子育てに関するお話を様々な本から引用して載せてくれていました。それを読んで、子どもへの理解を深めることができ、少し心に余裕ができて優しく接することができるということもありました。すぐに忘れてしまい、継続は難しいのですが、月1回の保健だよりで少しモチベーションを上げることができたので、このような発信方法も効果的なのではないかと思えます。

加えて、勉強が楽しいと思える取組が最大の難問ですが、苦手意識がある子どもにとっては義務感でやっているだけで楽しくなく、学力が上がらない。学力が上がらないと劣等感を生み、さらにやりたくないという悪循環が生まれてしまいます。無気力にならないためにも、学校や家での学びのほかに、地域でも学力向上に向け、何かできることはないでしょうか。

地域の子ども会が活動しても集まる人数が少なく、交流が薄くなってきていますが、子どもたちの気を引くイベントに加えて、少し学びの要素を入れることができれば、他学年で教えたり教えられたりして、家で親に教えられるよりも素直に聞くことができるかもしれない気がします。

家の近くのお寺では、夏休みに数日だけ寺子屋として寺を開け、子どもたちの勉強を見て

くれたり、遊ばせてくれたり、習字を書かせてくれたりします。登校時は道に出て子どもたちを見守ってくださっています。

このように、様々な人が子どもたちとの関わりを持っていただけたら、子どもの視野も広がり、学びに対しても前向きな気持ちを持つことができるのではないかと思います。

以上でございます。

〈永野市長〉

ありがとうございます。他にご意見ある方いらっしゃいますか。

〈植原教育長職務代理者〉

まず、教育費や人件費に関しまして、予算をつけていただきありがとうございます。非常に大きなことであると思っております。予算面は充実したものであると考えております。

次に、教育長が示したように重点施策を4点から3点に減らし、誰が見ても岸和田市は学力向上に力を入れていることを全面に押し出しています。そして、教育委員会全体で取り組むという気持ちが見て取れます。このように、学力向上の前段階の姿勢をアピールし、共通意識を高めていくことはとても大きなことであると思っております。教育長自らも様々な場面で、学力に関する話題を常にお話されていると聞いています。そういった意味でも今年度は非常に大きく期待をしております。

本題に入る前に、事務局に1点質問をしてもよろしいでしょうか。

クロス調査の分析結果を教えてくださいませんか。

〈学校教育課長〉

ご質問があった内容ですが、教育長からもお話がありましたが、学校教育課としてもこれまで様々な取組をしてきました。その中で、クロス調査をするよりも前から家庭学習は大切であるということは常に思っておりました。懇談会の際に保護者に対してリーフレットを配布し、訴えるといった取組をしていますが、なかなか改善が見られないのが現状です。このグラフに関しましても、テレビゲームをする時間が急激に上がっているなど非常に課題があるというように捉えています。

今後、学校の授業改善はもちろんですが、家庭にも今まで以上に発信しなければならないと捉えています。

〈植原教育長職務代理者〉

学力と読書などのクロス調査は常に行っていると思います。その中で、家庭の社会経済的背景（以下「SES」という。）というのがあります。様々なところで論文が出ています。そのSESの研究結果の中で、SESと学力との関係性から、SESから推計される学力よりも高い成果を上げている学校を調査したデータがあります。先ほどみなさんがおっしゃられたように、その地域では家庭学習の指導に関しては非常に充実しているとのことでした。

具体的に、学校がどのような指導をしているのかというと、1つ目は、児童・生徒に宿題だけでなく、自主学習等に取り組みせ、それを教員がチェックし、コメントしているという聞き取り調査がありました。2つ目は、管理職のリーダーシップと同僚性の構築です。論文では難しい言葉で書かれていますが、教員が授業を見せあってより高めていこうということです。子どもにわかりやすい授業をしようということです。そのようなことを普段からしているということが聞き取り調査で言われていることです。加えて、小中連携の取組もございますが、こちらは以前から議題に挙がっておりますので、割愛させていただきます。

また、学力向上には言語活動の充実が求められます。ノートの指導や聞くこと、書くこと、読書習慣、そのような形成に力を入れることで学力が上がるということがクロス調査でも結果として出ています。

家庭内、保護者の指導の格差が出てきますので、できるだけそのような社会的な背景の影響を縮小するための学校の取組として、放課後を利用した補助的な学習サポートを行っています。これに関しましては、放課後学習支援を非常に手厚くしていただいているということを知っています。

次に、算数の授業における習熟度別少人数学級の開設です。人数をできる限り減らし、個別学習を進めていくということです。先ほどと共通する点としましては、小中連携で進めることです。家庭学習の課題の与え方に関して、今までは課題を与えることでしたが、これからは課題の与え方の方法を教職員間で共有し、力を入れて取り組んでいるというような結果がありました。

保護者の子どもへの接し方で、テレビゲームや生活習慣に関する働きかけはとても重要です。遊ぶ時間を限定し、携帯電話のルール、決まった時間に寝るなど、約束を明確に決めている家庭が多いと思います。しかし、実践することができる家庭とできない家庭があるのは当然です。それを学校で啓発していくことが大切です。

また、読書に関する働きかけも重要です。本や新聞を読む習慣は、岸和田市は低いのですが、読書習慣を進めるだけで効果はあると思います。いろいろな本の感想を保護者と話すということも一つの方法であると思います。

小中、幼保連携の柱の中で、外国の文化に触れたり、本を通じて感想を話したり、図書館や博物館を子どもとともに回ることも大切です。子どもとのコミュニケーションにおいては、学校での出来事を話すようにします。成績や将来、進路のこと、友達のこと、社会のニュー

スについて話し合いをします。そういう行動が非常に効果的ではないかと思います。

岸和田も保護者に対して、非常に素晴らしい「岸和田の子どもたちに確かな学力を！」というリーフレットを作成しています。以前、ある自治体では、各学校でより具体的なものを出していると聞き、いただいたことがあります。家庭学習の手引きというもので、例えば、「1年生は家庭の学習を習慣化しましょう」ということが書かれていました。それを各学年別に分けて各家庭に配布されていました。

他にも、1年生は習慣づけの1年生、逃げない子にするための2年生、分岐点を乗り越える3年生、9歳の壁を破る4年生、天と地の差がつく5年生、などと記載があるのですが、それぞれより具体的な指標が挙げられています。また、生活の中で見えない学力をつけましょうということで、具体的には読書をしようということが挙げられています。このように、非常に具体的なものが教育委員会から各家庭に配付されています。

岸和田には子育て支援センターがありますので、各機関と連携して子どもの成長にあつた支援をしていければと思います。

以上でございます。

〈永野市長〉

ありがとうございます。

教育長、何かご意見あればお願いします。

〈大下教育長〉

各委員から非常に多くのご意見をいただきました。

学校は学校、地域は地域、家庭は家庭と別々に考えるのではなく、家庭で取り組んでいただくために学校としてどういうことが出来るのか、逆に学校での学習活動に地域や家庭がどう関わっていただくのか、その双方向性も非常に重要であると皆さんのお話を聞いて感じた次第でございます。

やはり、宿題を課すにしても単に子どもに宿題を課すだけでなく、宿題がどのような意味を持つのか、家庭でどのような取組をすべきなのかを保護者に対しても発信することで、学校が家庭に関わることができるのではないかと思います。

また、子どもたちがしっかりと授業に集中できるように、家庭でできることを学校の学習に向けて取り組んでいただくという双方向性が非常に大切なのではないかと改めて感じました。その辺りを今年度の課題として教育委員会の中で検討していきたいと思います。

以上でございます。

〈永野市長〉

ありがとうございます。

今、皆さんにご意見をいただき、教育について話し合うことができ本当に良かったと思います。

谷口委員からは、焦点を当てるべきは、子どもたちや教育の質の差ではなく、風土の差ではないかというご意見をいただきました。

野口委員からは、具体的な提案として、全国学力・学習状況調査をグループで考えてみてはどうかというご意見をいただきました。これについては、すごく面白いと感じました。全国学力・学習状況調査は1人で頑張るものですが、終わってからや普段の勉強の時間でも良いので、グループやチームで問題を解くということはすごく良いと思いました。それが実際、大人になって仕事をするとき、1人だけで考えなければならないという決まりはありませんので、ほとんどの場合が、誰かと話し合いをして乗り越えていきます。壁は皆で乗り越える練習をしっかりとすることも大切であると思います。これに関しては具体的に進めていくことも検討すべきなのではないかと思いました。

和田委員からは、子育て中のお母さんとして切実な意見が述べられました。iPhone を世に送り出したスティーブ・ジョブズは、自分の子どもにはiPhone を持たせなかったと言われています。それは、iPhone が子どもにどのような影響をもたらすかということがわかっていたのではないのでしょうか。

具体的に寺子屋のようなかたちで、地域で子どもたちを見守るようなことも良いのではないかと思います。例えば、子どもたちが学校から帰ってきて皆で集まることができるような場があっても良いのではないのでしょうか。集まって宿題する場があると、活用できる子どもたちがいると思います。とても良いと思ったので、参考にさせていただきたいと思います。

植原教育長職務代理者からは、家庭への支援方法を具体的に述べていただきました。教育現場から家庭にもしっかりと情報提供していくということも良いと思いました。

今の皆さんのお話を聞いた上で、何かご意見あればお願いします。

〈谷口委員〉

良い風土はもちろん続けていくべきですが、悪い風土や改善したい風土は当然改善していくべきであると思います。勉強しない風土があるのであれば、それは間違っていますので、その辺りをどのように育てていくべきかということが一番難しい部分であると思います。

わかっているけれどもできないというところが人間の一番弱い部分です。子どもだけでなく、大人も同じことが言えると思います。和田委員のお話にもありましたが、いかに継続す

るかというところが一番難しいので、その手法が大切になってきます。

ナッジ¹やペップトーク²とされているような心理学の手法を学校の先生方にも身につけていただいて、それを用いて家庭とも対立せずに、自ら進んで行動することができると、より良い風土になっていくのではないかと思います。

ペップトークについては、教育フォーラムで先生に実演していただきました。聞いていて面白いと思いました、当時は「ノーサイド・ゲーム」というラグビーのドラマが放送されており、ドラマの中で監督がペップトークを用いて話しているという場面を観ました。また、「先に生まれただけの僕」というドラマの中でもペップトークを用いて、校長先生が生徒たちを鼓舞するシーンもありました。

このようなテクニックを駆使することは決して悪いことではありません。そのような心理学の勉強会を開くことができると良いと思います。しかし、学んで実践し、継続することはとても難しいです。和田委員のお話にもありましたが、一度だけのパンフレット配布では効果がありませんので、毎月何かに少しでも組み込むということが非常に重要であると思います。

また、良い習慣が身につく、自分の中で定着するにはかなりの時間を要すると思います。エンゼルスの大谷翔平選手の有名なお話で、マンダラチャートを活用し、「8球団からのドラフト1位指名」の目標を達成するため、高校1年生の自分は何をすべきかを考えたという話があります。

マンダラチャートを小さいときから活用するなど、目標を設定し、目標に向かって進んでいくということも重要ではないかと思いました。

〈永野市長〉

ありがとうございます。他に皆さんのご意見を聞いて感じたことがあれば発言をお願いします。

〈和田委員〉

ゲームやYouTubeは悪い部分だけではないと思います。YouTubeであれば、芸人さんが面白く勉強を教えてくれる動画などがあります。ゲームで遊ぶ時間を勉強に使うことができると良いと思いました。子どもたちはゲームから得ている知識量もすごいです。そこから得た自分の好きなことをインターネットなどで調べるので、勉強もそのように取り入れることができると良いと思いました。

¹ 行動科学の知見から、望ましい行動をとれるよう人を後押しするアプローチのこと。

² ペップとは「元気」「活気」を意味し、アメリカでスポーツの試合前に監督やコーチといった指導的な立場にある人が本番で頑張してほしい選手たちに対して贈る激励のショートスピーチのこと。

〈永野市長〉

ありがとうございます。

〈谷口委員〉

今の小・中学生が SNS で得る情報量の多さは、平安時代の貴族が得る情報量の一生分だということを以前聞きました。いかに現代の情報量が多いかということです。子どもたちも情報に振り回されているのではないのでしょうか。その上、散文的な文章でしか見ませんので、その奥が何なのかということを知る間もなく結果だけを見ている状況です。その影響で深く考えることがなくなってきたのではないのでしょうか。

〈永野市長〉

先日、醍醐寺に行った際に、住職とお話する機会があり、掛け軸の話を伺いました。掛け軸は、私たちから見ると非常に地味ですが、当時はスマートフォンやゲームがない時代ですので、掛け軸が今で言う iPad と同じくらいモダンなものだったそうです。情報が溢れているために、子どもたちは酔ってくるのではないのでしょうか。情報量を大人がどれだけ調整することができるかが大切なのではないかと思います。情報を味わわせつつ調節するということをさせなければなりません。しかし、そのことが火種となり、親子喧嘩に繋がっては元も子もありませんので、喧嘩をせずにそれができればと思います。

他にご意見ありますでしょうか。

〈野口委員〉

母親としての和田委員のお話、父親としての永野市長のお話を聞いておりました思ったことがあります。

私の孫も小学生ですが、やはり、どうしても母親は感情的になってしまいがちです。その点、私は祖母ですので、立場としては孫を落ち着いて見ることができます。家に遊びに来たときは宿題を持ってきます。わからない問題があるときは、私ではなく母親に頼ります。しかし、母親は感情的になってしまい、段々とイラついてきてしまいます。そのときに私が間に入り、宿題の目標を設定するよう孫に話します。そうすることにより、温度感の高かった母親も少し落ち着くことができます。その辺りは祖母の役割であると思います。

自分の娘に対しては、娘の子どもに対して目標をどのようにして持たすことができるかという話をよくします。子どもは親の思い通りにはなりません、めざすべき点は心の底に持

っていてほしいですし、そのことを子どもとやり取りしてほしいと常々思っています。完璧な親をめざす必要はなく、子どもと様々な葛藤をしながらともに育っていくことができたらと思います。

学びということを先ほど申し上げましたが、家庭の枠だけに収めてしまうと、とてもしんどいです。学校、地域とどう繋がるかが重要です。学校は家庭で楽しく学ぶことができるような課題を学校の中で与えるために、しっかりと研究してほしいと思います。学校の勉強が楽しくなければ、宿題は絶対やる気にはなりません。その点をしっかりと学校に研究してほしいと思います。

以上でございます。

〈永野市長〉

ありがとうございます。

学校が楽しいかどうかのアンケートは取られていますか。あれば結果を教えてください。

〈学校教育課長〉

岸和田の子どもたちは学校が楽しいと回答する子がほとんどです。ただ、楽しいと言っている内訳は聞いていないので、まだまだ分析が必要だと思います。学校で好き放題できることが楽しいと思っている子どももいる可能性もありますし、その部分についてはまた見極めていきたいと思っております。

〈永野市長〉

ありがとうございます。このアンケート結果で少し救われた気持ちになりました。

学校が楽しいということが第一です。その上に、より充実した学びを取り入れていきたいと思えます。

他にご意見のある方いらっしゃいますか。

〈谷口委員〉

超高齢化社会で、最近よく言われます人生 100 年時代は現実味を帯び、たくさんおられる元気な高齢者の方々のお力を家庭教育・社会教育に活かしていただくよう考えることは、より重要であると考えます。今までも高齢者の方々には、子どもの安全見まもり隊や様々なボランティア活動をいただいているところですが、教育においても、子どもたちにご指導いた

だけのレベルの方々もたくさんおられると思います。失礼な表現かも知れませんが、その方々のお力を社会資源ととらえると、ご協力を得ることで子どもを社会で育てるという文化を作れるのではないのでしょうか。

以上でございます。

〈永野市長〉

ありがとうございます。先ほどのお話で、ゲームをやっている子どもと学力の関係というデータがありましたが、ゲームの時間が多いか少ないかは、ゲームが好きで多いということではなく、ゲーム以外にすることがない子が多いのではないかと思いました。そういった意味では、この数字はコミュニケーションを表しているのかもしれないと思いました。

例えば、祖父と住んでおり、祖父とたくさん遊んでいる子どもは、その分ゲームをしなくても良いと思います。一方で、暇でやることがない状態の子どもたちは、ある意味ゲームが遊び相手になるのではないかという現状もあると思いました。そういう意味では、元気な高齢者を貴重な資源として捉え、教育を支える者として活用させていただければ良いと思います。こちらも教育委員会が施策を考える上で検討していただきたいと思います。

テストの点数を上げることが目的ではないと思いますが、テストの点数を見える化することによって子どもたちの学びが進んでいるかどうかを確認することができます。そういった意味で、現在実施している調査等を十二分に活用して、個々の子どもたちの成績の伸びを可視化することができればと良いと思います。

学年や岸和田市全体の教育の平均が伸びているかどうかは、参考にはしますが、一番大切なのは個人であり、去年と比べて今年は伸びているかどうかを重要視することが大切なのではないかと思います。例えば、去年算数を頑張ったので、今年は算数の成績が伸びたということが実感できると、子どもたちはどんどんやる気になると思います。今後も子どもたちが個々に自分の成績をスムーズに経年比較できるようなシステム構築の検討をお願いします。

教育長、最後にご意見あればお願いします。

〈大下教育長〉

先日、岸和田市子ども文庫連絡会の役員の方がお見えになられ、少し意見交換をしました。皆さんボランティアで子どもたちに本を読み聞かせる活動を学校や地域でされているとのことです。岸和田市の場合は、地域にもマンパワーが溢れていると改めて実感しました。

そういったことから、地域の力を借りながら、学校教育を充実させていくことも大切であると思いますし、学校、あるいは、市が持っているマンパワーをいかに地域に還元していくかということも大切であると感じました。

本日、各委員からたくさんの有益なご意見をいただきました。少しお時間をいただきまして、今日の意見を教育委員会事務局の中でどう具現化していくのかということについて議論をさせていただくつもりです。改めて、教育委員会の会議や次回の総合教育会議でその辺りのまとまった具体的な策をお示しできればと考えております。

以上でございます。

〈永野市長〉

ありがとうございます。

では、次第に沿いまして、会議事項の「3. その他」に移りたいと思います。

その他、ございますでしょうか。

ないようですので、これにて、第2回総合教育会議を閉会させていただきます。

今年度の開催回数につきましては、今回を含め、2回程度を考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次回の日程調整につきましては、別途事務局からご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上が、本日の内容となります。

委員の皆さま、ありがとうございました。

市長

署名委員